



挨拶（あいさつ）

毎朝、正門や西門に立って、登校してくる子供たちに「おはようございます」と挨拶をしています。このときの子供たちの様子は実に様々です。次に、挨拶のポイント別に、タイプ分けをしてみました。

ポイント タイプ	自分から	相手の目を見て	会釈しながら	よく聞こえる声で
①	○	○	○	○
②	▲	○	○	○
③	▲	○	○	▲
④	○	○	▲	○
⑤	▲	○	▲	○
⑥	▲	▲	○	▲
⑦	▲	▲	▲	○
⑧	▲	▲	▲	▲

①は、最高に気持ちがいいです。言うことなしです。②は、私の挨拶に元気よく応えてくれます。③は、恥ずかしそうに挨拶をする子です。会釈をするので、気持ちは感じます。このタイプの子は、割と多くいます。④と⑤は、会釈はしないが、元気よく挨拶ができます。小学生にはこのタイプが多いです。⑥は、伏し目がちに会釈はするが、視線が合わず、声もないので寂しいです。⑦は、元気よく声を出していますが、私の方を見ていないので、あまり気持ちが伝わってこない印象です。⑧は、私の目の前を素通りしていってしまう子です。このタイプの子も少なからずいます。

先日、「校長室だより」第4号でお伝えしたように、男川っ子は、昨年より「自分から」挨拶ができるようになってきました。「挨拶」の漢字の意味を調べると、<「挨」＝互いに近づく、「拶」＝迫る>とあります。この漢字の意味からすると、「自分から」挨拶するという点では、頑張れていると思います。今後は、さらに高みを目指し、**相手に気持ちの伝わる挨拶**ができるようにしていきたいと考えています。上の表のタイプ分けをしてみて、挨拶をして気持ちが伝わるか否かは、声の大きさよりも、①～⑤のように、**相手の目を見ているか**という点が重要だと改めて感じました。さて、現在、お子さんは、どのタイプでしょうか。一度、お子さんと話し合ってくださいとうれしいです。

【残念！「スーパームーン皆既月食」は見られず。でも、半年後に期待！】

昨夜の「スーパームーン皆既月食」は、残念ながら梅雨空の厚い雲に遮られ、赤銅色の神秘的な月を見ることはできませんでした。ただ、皆既の時刻が過ぎて粘って空を見続けていたところ、満月に戻る途中に少し雲が薄くなり、右の写真に示した、半分欠けた状態の月を見ることができました。

でも、今年はラッキーなことに、もう一度、月食を見るチャンスが訪れます。約半年後の11月19日（金）午後6時3分頃に、部分月食ではありますが、約97%が欠けるという皆既月食に近い状態の月を見ることができます。今は、それがきれいに見られることに希望を託したいと思います。


